

本人が知らない間に肝炎ウイルスに感染しており、肝硬変や肝がんへ移行するケースが大きな問題となっています。ぜひ、一度検査を受けましょう。

**【対】**①昭和55年4月から昭和56年3月生まれで受診時に満40歳に達している人②満40歳から70歳で、まだ一度も肝炎ウイルス検査を受けたことがない人**【内】**血液検査**【申】**①の人は直接、取り扱い(医療機関(令和2年度保健事業案内参照)の窓口または電話でご予約ください。②の人は事前に地域保健課での受診券発行の手続きが必要です。**【問】**地域保健課

肝炎ウイルス検診のご案内



♥ 献血にご協力を

**【時】【所】**10月5日(月)

河内天美駅前

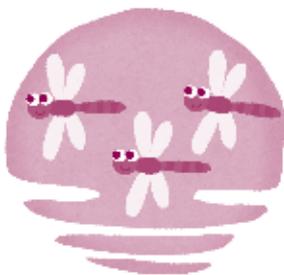
午前10時～正午

午後1時～4時30分

※400ml 献血のみ

**【問】**松原市社会福祉協議会

(☎333-0294)



西田耳鼻咽喉科  
院長 西田尚司

補聴器装用について

補聴器をつけても言葉が全くわからない、音が響いて装用するのがいやなど不平不満がたくさんあると思います。自分に適合していない補聴器を装用しているのも原因ですが、補聴器は、音を大きくできるが言葉を明瞭にできないという補聴器の限界を理解していないことにもよります。

ところで、補聴器のフィッティングでよく行われる3つの検査は、①低音から高音までの各周波数でどれだけ小さい音が聞こえるかをみる純音聴力検査、②音を脳で言語としてどれだけ理解できるかをみる語音聴力検査、③内耳性難聴(補聴器が必要な人の大部分)では、小さい音は聞こえず、また少しでも大きい音になると音が響いたりして不快で聞こえなくなります。すなわち快適に聞こえる音圧の幅が狭くなる現象(補充現象)が occurs。SISIテストなどは、この補充現象を調べる検査です。

高齢者の難聴では、語音弁別が悪く、音が響く現象がひどい人が多いため上記検査で自分の聴覚の状態を理解しましょう。語音聴力の悪い補聴器装用者には、声の大きさは普通でできるだけゆっくり話してあげればかなり理解できます。聴覚刺激が少ないと認知能力悪化も証明されていますので適切な補聴器装用を耳鼻科にご相談ください。

Menu

ヘルスマイト(松原市食生活改善推進員)がおすすめ! 今月のレシピ  
～ごはんを美味しく食べよう～



洋風うどん

**【材料】**(4人分) ゆでうどん4玉、ベーコン2枚、玉ねぎ1/2個、しめじ1袋、ブロッコリー 1/2株、牛乳350ml、ピザ用チーズ40g、バター 10g、コンソメ顆粒小さじ1、塩こしょう少々

**【作り方】**①ベーコンは1cm幅に、玉ねぎは薄切りにする。しめじは石づきを切りほぐす。ブロッコリーは小房に分ける。②フライパンにバターを溶かし、①を炒める。③牛乳、うどん、コンソメを加え、混ぜながら汁気がなくなるまで煮る。④チーズを加えて火を止め、うどんに絡ませながら溶かし、塩こしょうで味をととのえる。



食事バランスガイド  
主食1.5SV 副菜1SV  
主菜0.5SV

牛乳・乳製品1SV

**【問】**地域保健課

